

四月

観桜の余韻に浸る緋毛氈  
鯉留守の天守の低し春の雨  
静かさや雨忍び降る夜半の春  
春惜しむ山車も館で自粛なり



信  
晴代  
鉄夫  
雅俊

若竹の竹に成る日の薄化粧  
夕風にゆれ半夏生白立てり  
したたかに畔草を刈る夏土用  
くつろいて自宅で観戦甚平着て

信



五月

天涯の青空泳ぐ鯉のぼり  
二の腕を出して薄暑の水仕事



信  
晴代

しらずしらず

不知不識日陰を歩む薄暑かな  
ワクチンを打ちて安らぎ南風の風

鉄夫  
雅俊

八月

甚平の裾持つ曾孫労りつ  
炎天下木陰木陰でつく吐息  
迎え火に揺れしは父母と思いきり

信



六月



ビートルズの टीーシャツを着て更衣  
接種すみ梅雨の晴れ間の街光る  
滴りて谷川となり野良青めり  
身ぎれいが父母の教えと衣替え

信  
晴代  
鉄夫  
雅俊

九月

霧晴れて思わぬ一句生れたり  
秋の宵己が影拭く目の疎さ  
新米に能登の水田思いをり

信



晴代  
雅俊